

トピックス

終戦直後の記憶「飢え」:

昭和20年8月15日に戦争が終わり、新しい時代に入りました。当時の記憶として残る一つは「飢え」、75年を経た今、わずかな記憶の残影をつなぎ合わせて、「飢え」を思い出してみたいと思います。

私の記憶に一番残っている出来事は、片道10数キロを歩いて村にあった母方の実家の親戚筋の家々を訪ねて飯にありついたことです。村には当時はまだ電気も水道もありませんでした。素朴で親切な人たちは、その時々を訪ねたあちこちで、梅干を載せた銀シャリをふるまってくれました。終戦直後、私が小学校6年から中学1年の頃の話です。4歳年上の従兄、2歳年上の兄と3人で、多くの場合、今は廃線となった線路伝いに歩いて行きました。線路は坂あり橋ありで、伝聞によると汽車が満員になると急坂を上ることが出来ず、乗客が降りて汽車を押して坂を上り、そこで改めて汽車に乗ったとのこと。

村は市町村合併で市の一部となり、訪ねてみると藁ぶき屋根の家はカラフルで瀟洒な住宅に代わっていました。変わらないのは相変わらずのどかな風景と、山の中にある村落の共同墓地、そこにはほとんど同姓の墓柱が変わらずに立っていました。

食べ物の話になると、戦中食として定番の「すいとん」は、あまり記憶にはありません。多分、主食として当たり前に食べていたからでしょう。記憶に残っている食材は、いなごとどんぐりパン、そしてイモ飯です。イナゴとどんぐりパンは今でも食材として世の中に残っています。

イモ飯の記憶は、冷えたイモ飯のその不味さでした。「冷えた」が日常でした。多くの家で鶏を飼っていました。その卵と肉が、手に入る唯一といえる貴重なたんぱく源だったからでしょう。

「飢えを凌ぐ」ために25キロ程を何度も歩いた体験が、今の私のウォーキング癖の原点になったかもしれません。

鈴木 為 之 (山の根在住)

編集後記

お彼岸になると、甘いものが好きな私は「おはぎ」を食べるのを楽しみにしている。この時期は萩の時期なので、また春は牡丹の時期であることから「ぼた餅」と呼ぶらしい。日本人は季節移ろいに敏感で繊細な感覚を持っているのだろう。一方で最近夏が猛暑が続いたり、従来経験したことのない豪雨に見舞われたり、コロナ感染を意識したり、四季の移ろいを愛でる雰囲気は薄れている様な気がする。今度の中秋の名月は(10月1日)月を眺めてゆっくりと団子でも食べたいものだ。

事務局長 石井 達郎

久木小学校区住民自治協議会・広報誌

住民協ひろば

第42号 (準備会から通算第63号)

発行日 令和2年10月3日

発行所 逗子市久木2-1-1

久木小学校区住民自治協議会

発行人 田倉 由男

・・・「With コロナ」の活動について・・・

新型コロナウイルスについて関連情報が毎日の様にメディアで飛び交うことが日常化した。感染防止のため自粛期間を経て、生活の中で感染のリスクはゼロにはならず、コロナの感染リスクを意識しつつも日常の活動をしていかざるを得ない。久木住民協の活動もコロナリスクを意識しての活動となっており、例えば久木会館前で7月からスタートした「家庭菜園愛好者交流頒布会」は野菜を中心とした交流が生まれ、これに「みんなの食堂」が加わり屋外で人数を限定した食事会をおこなっており、新しい試みとして「久木朝市」へと活動が本格化する事が期待される。

以下の通り、逗子市が作成した「新型コロナウイルス感染症拡大にかかる住民自治協議会における会議等の開催ガイドライン」を掲載します。

1.会議の設定方法

- ・密集を避ける会場の確保をする。
- ・身体的距離の確保 (なるべく席の間隔を空ける)
- ・代表者会議など、会議時間の短縮 (事前に資料の作成をするなどにより)

2.会議の開催方法

- ・手指の消毒をする。
- ・マスクの着用
- ・熱があるときや体調が優れないときは参加しない。
- ・会議時間が1時間を超えときは、10分間程度窓を開けて換気を行う。
- ・大声を出すことは控える。

3.その他、事業等を行うとき

- ・会議の開催方法と同様の対応とする。

事務局長 石井 達郎

令和2年9月度役員会

令和2年9月5日(土)13:30~15:00 久木会館で した。主な議題は以下の通りです。
26名(うち役員14名)が参加して開催されま

(1) 行政等連絡事項

- ① 神奈川県須賀土木事務所：(レッドゾーン 基礎調査結果(レッドゾーン指定)について、10月に公表予定であるが、コロナの影響で住

民説明会が開けない為、回覧などによる周知の依頼があった。

住民に対して、影響が大きい問題なので、周知は自治会まかせでなく、行政の丁寧な対応が必要であり、回覧問題は別にして、周知方法については今後も協議してゆきたいとの要請が出された。また、各自治会の必要部数については、事務局が取り纏めて、横須賀土木事務所に連絡することとした。

② 東京電力より停電情報等について

配布資料の内容が説明され、台風接近前の停電防止対策についての協力要請があった。また、東京電力を騙った詐欺が発生しているとの報告があり、身分証・名札の確認をする

様注意があった。

③ 資源循環課よりの連絡

「一般廃棄物処理計画及び災害廃棄物処理計画」に関する説明会が10月31日に久本会館で開かれる旨説明された。

④ こども食堂助成金について

事務局より、神奈川県がコロナ状況下でのこども食堂活動に関して5万円の助成が受けられる旨説明があり、こども部会として検討することとなった。

⑤ 逗子市総合計画審議会の件

配布資料の内容を参考に、審議会の現況報告があった。

(2) 審議事項

① 各部会長及び事業代表から現況報告及び全体への協力要請事項

◆減災部会：8/13 逗子市防災安全課との確認協議を実施し、久小が防災拠点になった際の機能などにつき確認した旨報告された。また、8/29 聖和学院の生徒が実施した3つの調査研究成果が発表され、参考になったとの報告があり、今後も情報交換してゆく旨説明された。

◆新拠点部会：家庭菜園愛好者頒布会を次回11月3日に開催する予定で、今までの反省点なども加味して、よりよい頒布会を模索するとの報告があった。

◆こども部会：みんなの食堂の休止中の調理スタッフの士気を保つ意味を込めて、8/27にスタッフ向けに50食のカレーを作り、好評を得たとの報告あり。また今後の活動については9/17にみんなの食堂スタッフを集めて協議する予定であるとの事。

◆ふれあい部会：ボールウォーキングは休止中、秋に再開できるか探ってゆく、有償サービス活動は山の根地区で粛々と活動している。また今後の活動については企画してゆきたいと

の報告があった。

◆久本会館：9/1より、施設利用者定員を従来の定員に戻すという逗子市の通達が出されているが、久本会館は、コロナ禍の定員で運用を継続する。また自主避難所が久小体育館になったが、久本会館も久小と一体での対応が要望されている旨説明された。また、運営委員会で議論の結果、地域情報発信機能を強化する意味から、地域情報掲示を増やしてゆく旨報告あり。

② 「住民協ひろば特別号」について

表題ロゴ、特集のコンセプト・在り方、ページ割など、種々意見があり、意見集約を図り、纏まった編集案を次回役員会提示することになった。

③ その他

a.新たな役員会参加者として、監査役/増子さん、ハイランド地区自治会長/海野さんの紹介があった。

b.会長名による「住民協ひろば特別号」への広告掲載依頼文書が用意されている旨事務局より説明があった。

【聖和学院「地域の防災・減災プロジェクト」発表会】

に参加して

住民協 副代表 小林 寿 志



リュックの中身の確認をする・非常食や飲み水を数日分用意しておく等の発表がありました。

第3グループは、避難所での生活を考えよう。(よりよく生活するために大切なこと)で、・隣近所の人と日頃よりコミュニケーションをとり、災害時に協力できる関係を作る・高齢者や障がい者を見守り助ける・ネットなどで災害情報をとる・アイマスクや耳栓も用意が必要・非常食も栄養バランスに気を付ける・食中毒や熱中症に気を付ける等の発表がありました。

この後、地域の人と質疑応答や意見交換を行ない、その中で今回の発表会は地域としてもとても参考となり、また聖和学院と地域の大きな繋がりが出来たのは良かったとの意見がでました。

さらに8月7日には聖和学院がインターネットのZOOMイベントも実施し、広く研究成果を発表されました。これからは防災・減災を身近に捉えて日頃より準備をしていくことが大切だと思います。

聖和学院の皆様お世話になりました。ありがとうございました。

聖和学院より中学生・高校生が、地域の防災・減災について調査・研究をして、発表会を開催したいとの要望を7月にいただきました。

防災・減災について、地域で活動している久本自主防災組織や避難所の現状の資料も参考にしたいとのことでしたので提供しました。その後聖和学院で2回準備の打ち合わせをして、発表会の日8月29日を迎えました。

発表会は聖和学院礼拝堂で行われ、地元地域から住民協・自主防災組織・避難所準備委員会等のメンバー13名、聖和学院から中学生、高校生10名・教職員の皆様13名、合計36名が参加しました。主催は、聖和学院中学校・高等学校で「地域の防災・減災プロジェクト」チームの生徒の皆さんに発表していただきました。

テーマは「地域の防災・減災について皆で一緒に考えよう。そのとき、私たちにできることは何だろうか？」とし、3グループに分かれて発表されました。

第1グループは「もしも」に「いつも」備えよう。(避難ルートや避難グッズの確認)で、・大地震に備える・自分の身を守り机の下に避難する・動けるようになったらタンクに水を貯める・避難リュックを用意する・エレベーターは使用しない・急に外に飛び出さない・危険個所の確認をする等の発表がありました。

第2グループは、そのとき、どうする？(地震発生時・避難時の行動)で、・避難経路を確認する・逗子市ハザードマップを貼って確認しておく・警戒レベル情報に注意し土砂災害に気を付ける・家具が動かないように固定する・防災